

JOMON SPIRAL ARTS

大自然と宇宙の生命波動、生と死と再生への畏怖・祈りの世界観が表現された1万年の始原のアート世界～縄文芸術。ひたすらに心を沿わせてきた縄文のカタチ。縄文の心と技に学び現代に生きる己の感性で土と炎と大自然と向き合い、新時代的美を求めていく縄文アーティスト集団の誕生です。縄文の新しい渦が新星のように生まれてゆく時代を切り拓いていきます。

ARTIST PROFILE

猪風来 縄文造形家
広島県出身 新見市在住



千葉県加曾利貝塚博物館土器作り同好会にて縄文土器の復元活動。1986年より北海道にて竪穴住居と自給自足の縄文暮らしと縄文造形作品多数創作。海外での土器野焼き探訪や縄文の講演や野焼き実演など。2005年岡山県新見市に日本唯一の現代縄文美術館である「猪風来美術館」開館。



むらかみよしこ 染織作家
岩手県出身 新見市在住

縄文スピリットにふれ、地球のあらゆる命とつながる魂に魅了される。草木染の深く多彩な色を使い命の記憶をたどる旅を綴織で表現。



村上原野 縄文造形家
北海道浜益村出身 新見市在住

縄文土器／土偶の徹底的な模写から体得した縄文の心と技を基盤として「現代に生きる己の感性」による新たな縄文造形を創出している。近年では国内外で活動を展開。その技量と根拠力が現代縄文芸術の若き旗手として高い評価を受けている。



北村ますみ 縄文作家
愛媛県宇和島市出身 福山市在住

2017年1月猪風来美術館に初めて訪れ、縄文の深さと館の雰囲気惹かれ何回か陶芸教室へ。退職を機に美術館へ通ううちに、ハマってしまった。「縄文土器って、まさに現代アート!」



土田哲也 縄文土器作家
新見市哲西町出身在住

法曾の地で縄文土器に出逢ったとき一万年の時を経て縄文の記憶は完全に呼び覚まされました。それから10年縄文土器と向きあい、作り続け、熱帯雨林で出逢った植物のかたちを土器の中に入れ込みながら創作しています。



中山裕那 縄文創作家
北九州市生まれ 岡山市在住

人の心に寄り添う作品を志し、お地蔵様やシーサー等を制作し各地で作品展を行う。2014年 猪風来の縄文造形と縄文野焼きに感動し、以来、猪風来美術館に通い縄文土偶の創作を続ける。



兵頭百華 縄文アーティスト
倉敷市出身在住

2019年7月に猪風来美術館にて縄文土器作りを体験。土に触れ形を作りだす楽しさ縄文の奥深さに感銘を受け、その後模写制作を始める。現在は縄文の精神性や土器作りの技術を今後の創作活動に活かすために学んでいる。

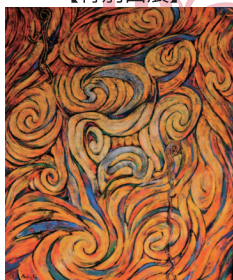


小野真由美 縄文土器作家
岡山県生まれ

2015年春の縄文野焼きで大地と炎の子宮を目の前にして、縄文に目覚め猪風来の教えを受けながらひたすら作り続ける。現在 大山・岡山を拠点に創作活動・個展・縄文煮炊きを行っている。



【特別出展】



米本久美子 画家
岡山市在住

先住民の世界に惹かれ絵本の仕事にも携わり始める。2013年に猪風来美術館で家族で土器制作「野焼き祭り」を見て以来縄文にハマる。今では「女たちの野焼き」にいつまで参加できるか挑戦中。



荒川悠 “月の村”デザイナー
新潟県長岡市出身 総社市在住

火炎土器出土の地生まれ。タイの田舎で村づくりをしていた夫と出会い結婚。2013年、猪風来美術館で縄文に出会う。「いのちの造形」に魅了され、土器づくりをはじめる。

谷本明久 画家
岡山県高梁市在住

昭和9年10月8日生まれ
独立美術協会会友 画歴48年
近年は縄文をテーマとして、筆のかわりに“縄”そのものを画具とした油彩画を制作している。



小山麻衣子
(縄文大地の精霊ダンス・ゲストダンサー)
岡山市在住

ダンス修行でギニア共和国へ渡航。中国、フランスでパフォーマンスやワークショップを行う。腹の底から渦が湧く ハートが震えて、私自身が渦になって土器から受け取って私を通して産まれてくる動きを楽しみに踊ります。